

別紙～記述回答一覧

【期間・回数に対する評価】⑤-1「学校行事の時期の変更、廃止等」

・行事名： 文化祭・見学旅行・球技大会・学校祭（準備期間を含む）体育大会・海外研修

【期間・回数に対する評価】⑤-2「考査時期の変更」

・考査名： 前期中間考査・前期期末考査・後期中間考査・学期末考査・第3回定期考査・1学期期末考査・2学期中間考査・2学期期末考査・期末考査・3年後期考査

【期間・回数に対する評価】⑤-4「その他の変更」

- ・英検第1回と時期が近い。
- ・受験日程と学校行事全体のバランスを見て検討する。
- ・単元別考査とする。
- ・学期区分や学期制の検討
- ・年間計画全体

【期間・回数に対する評価】⑥-6「その他」

- ・委員会を設置し、対応を検討することとしている。
- ・大学での活用の在り方により対応する。
- ・英語科と進路指導部で検討中。受験する生徒が出てきた場合に、対応を考える。生徒の学習状況等を見ながら生徒、保護者と相談しながら試験種や時期を絞り込む。
- ・(1)(2)を柱として学校で進めるが、他の検定を希望する生徒がいれば、受験は拒まない。
- ・まだ不明
- ・検定はこれからです。

【期間・回数に対する評価】⑧「理由」

- ・受験時期、認定試験の種類により、学校間の格差が大きくなる。
- ・学習指導要領の内容を全て履修してから、受験とすべきなので、現状の1月に1回でやむを得ない。
- ・全員が同一の問題を同一日に受験しないのであれば、期間や回数を限定する必要があるのではないか。
- ・高校1年でも2年でも民間試験の結果を利用できるようにした方がよい。そうでなければ1回（同一問題同一日）に限定した方が負担が少ない。
- ・早い段階で取得した生徒の到達点を見ないことにするのは大変残念である。期間が長く、学校生活への影響が大きい。
- ・総合型入試への対応として、3回受験を可能とする。
- ・高校3年間で受験可能とした方が、特に郡部等で、計画的に対応できるので、3年次に限定せず、少なくとも2年次から前倒しで受験できるようにして欲しい。そもそも高校3年のみということに疑問を感じています。
- ・一部の実力のある生徒には、2年次での受験を認めるべき。
- ・従来の行事や居住地域を考慮し、2年の9月以降等、期間を長くする。
- ・学校生活の影響が大きく、3年生の9～12月まで1回とするか、2年生でも1回は可とする。
- ・受験回数が少ないので、3期の区分を設けず、4月から12月までの間に、3回の受験を可能にする。
- ・保護者の経済的負担や地方の生徒に配慮し、3年間のベストスコアを採用して欲しい。
- ・設定されている期間が長く学校行事等に影響を与えかねない。
- ・2年生1月～3月も範囲に入れて、3回までとする。
- ・推薦入試への対応として、3回の受験を可能にする。
- ・共通テストで行うべき。
- ・認定試験は受験のしやすさ（費用・移動時間）等から地方の学生の受験は不利になる。
- ・受験機会の公平性を理由に、高校3年生の2回と限定するのは、別の意味で公平性を欠いていると感じる。浪人生対応はどうするのか。
- ・そもそも共通テストの性格を生かすのであれば、受験料をセンター試験に組み込み、民間試験を1本化するべきと考える。3年生にこだわる必要がない。2年生でも可能。要は大学が必要な英語力に達しているかどうか。
- ・設定期間が長く、高校生活への影響が大きい。短期間で統一した受験のスタイルとすべき。

・様々な理由をもった生徒にとって、自分の都合を選択できる、受験機会が多い方がありがたい。認定試験は、ライセンスではない。しかし、大学受験で利用するということは、受験資格そのもの。高校での英語の在り方が問われる。義務教育段階の指導の格差、早い段階からの合格目的の受験指導が奨励されることにつながらないことを願う。

- ・選択肢が多いとそれだけ指導が大変になるから。
 - ・4～12月としているが、実際は4～9月に集中することが予想される。
 - ・すべての受験生を対象に、2年生の11月からなどとして実施機関にゆとりを持たせたい。
 - ・期間が長く、生徒への心理的な負担が大きい。
 - ・認定試験の意味合い、3年次までに取得した資格認定でも可とすべき。
 - ・学校行事への影響が大きく、他学年に波及する。
 - ・2回にこだわるのであれば、3年生の9～12月の期間内に2回の受験とすべきである。
 - ・1・2年生で取った資格も認めるべき。2年生までに取得した資格・スコアも加算する。
 - ・2年次までに取得した資格が活かさない。
 - ・どの試験を受験するか、いつ受験するかなど生徒に対しての公平感がない。
 - ・どうして2回なのか根拠が分からない。部活動をしている生徒にとっては、地区大会や全道全国大会などが重なることもあり、集中して受験への取組ができなくなることへの懸念が生じるので、10月からの受験とするか。在宅で受験できる方法を模索する。
 - ・行事変更しなければならない。高2の1～3月、高3の7～9月にする。
 - ・もう少し状況を見守りたい。
 - ・期間が長く、学校生活への影響が大きいため、3年生の9月から12月までに1回とする。
 - ・民間の認定試験に頼るとしても、ひとつの認定試験に対して1回の試験を指定して欲しい。
 - ・（受験生にとってわかりやすく、負担のなるべくかからない制度に）2回に限るべきではない。また、認定試験の種類についても、複数種を認めるべき。
 - ・2年の10月～12月、3年の7月～9月受験とすべき。学校生活への影響が大きい。
 - ・入試の直近の学力で、なるべく3年次の後半のものが望ましい。
 - ・3年生の9月から12月までの期間で1回のみ受験することとし、共通テストとの併用を継続することとする。
 - ・3年生の9月から12月の1回が望ましいと考えるが、認定試験実施団体としては、対応できないと考える。英語の学力が伸びている途中で受験するのは、スコア等を考えると不利になる。
 - ・（生徒はまだまだ伸びる時期である）9月から12月までの1回とする。
 - ・5年以内程度の結果を自由に資格として利用できるようにする。回数を制限する必要はない。
 - ・期間が長い。
 - ・学校生活への影響が大きい。例えば、1・2年で実用英検2級などに合格した者にとっては、不必要な受験となる。
 - ・大学進学するために負担感が大きい。
 - ・推薦入試との関係から、1回が望ましいのではないか。
 - ・最近打ち出されたように、3年次における長期入院等を考慮し、2年生までの成績も有効とするべきである。
 - ・2年次生までに取得したスコアやポイント、級（英検2級取得など）が活かされない。
 - ・2年生までに上位級を合格した生徒は、3年生で再び受験が必要となる。また、12月では共通テストと日程が近く、受験生徒の負担が大きい。
- 高校の取得学年に関わらず全て有効にすべき。
- ・努力して早めに取得した生徒には不公平である。高1・2年での外部試験への意欲が減退する可能性もある。そもそも民間認定試験の活用は拙速と考えていることから。

【対象認定試験に対する評価】⑩

- ・おおむね含まれているから。
- ・受験の機会は多い方がいい。
- ・民間に丸投げしたものに公平性や妥当性など担保できる保証がないから。
- ・比較対照するうえで、ある程度の制限は不可欠である。
- ・試行錯誤を重ねながら、結果分析を進めることが必要。また、試験として、適するのか、不適なのかの線引きは難しいと考える。
- ・認定試験を導入する以上は、妥当でなければならない。
- ・民間企業で余裕をもって良質な問題を作ってもらう。難易度や実施回数、受験費用など、各社で条件が異なるため。
- ・検定としては妥当であるが、費用の面、公正さを担保できるかが課題と考える。
- ・選択肢が増えるというメリットがあるが、異なる民間試験の結果を具体的にどのように公平性を持って扱うのか。
- ・チャンスが多い方がいい。検定料、難易度等の差はあるが、回数を重ねれば受験生の選択が固定化し、淘汰されていくと思う。
- ・CEFRによるとはいえ、各認定試験の意図が異なる。
- ・数が多すぎて公平性が保証されない可能性がある。
- ・公平性の担保に不安がある。限った認定試験では偏りがあるから平等ではないと思います。
- ・限定すると、その試験対策に偏る危険性がある。
- ・各試験の違いが小さくないから。
- ・受験機会の公平性の観点では、高額な受験料と受験会場数が都市部と郡部では大きな相違があること等から公平とは言えないから。また、本来の多様な測定目的でデザインされている資格検定試験の結果を、一つの基準で大学入試の出願要件や可否判定に使用するのは無理があるから。
- ・妥当な試験であれば、英語力をほぼ確実に把握できると思うから。
- ・受験生の受験機会を確保するため。
- ・一つの業者に偏らないため。
- ・居住地域によって受験しやすさに大きな違いがあり、公平性に疑問が残る。

- ・全国各地の公・国・私立の高校や中等教育学校には、英語教育に特色のある学校も少なくなく、生徒の力量に応じた試験を対象とするのは、妥当であるため。
- ・センターが認定した全ての資格・検定試験を対象にした方が民間業者の不公平感が生まれない。
- ・各種民間試験にそれぞれ特徴があり、自分に合うものを探して受験できるところが良い。
- ・数が多すぎるが、おそらく、いくつかの民間試験に絞られてくるのではないか。
- ・民間試験間の格差があること、主催者の理念、ライセンスの目的が異なること。
- ・検定料が高すぎて、生徒の負担が大きすぎる。
- ・生徒の学習方法に応じて受験できるようになる。
- ・地域差や高校の差は多かれ少なかれあるので、多くの中から選べるのは公平性を保つ上で必要であるとする。
- ・生徒の嗜好に合わせることが大切であることから、多くの民間試験を認めるのは妥当と考える。
- ・数が多いので絞った方がよい。
- ・試験の難易度にも差があり、公平性に疑問
- ・実施時期、費用、受験会場等の点から、特定の資格・検定試験とはできないのではないかと。
- ・わかりにくく、費用だけでなく生徒への負担が大きすぎる。
- ・生徒の幅広い選択肢を保障すべきであって、学校側がいたずらに制限すべきでないとする。
- ・数が多くて難易度等に差が生まれ公平に評価されない。どうしても、評価の基準が難しいと考えられる。
- ・認定試験の分野や内容、語彙等に偏りや難易度等の差があるため。
- ・地域によっては近辺で受験できない民間試験があるため。
- ・異なる民間試験の結果を同等かつ公平に評価・比較できるのだろうか、という懸念がある。
- ・高等学校は多様化しており、英語の資格・検定試験においてもある程度の幅を持たせなくては対応できないから。
- ・選択幅が広がるのは良いこと。ただし数が多いのと、料金設定、時期（高体連・高野連）には問題が多い。
- ・学校ごとに置かれている状況は様々なので、選択肢は多い方がよい。
- ・地方と都市との格差が拡大する。
- ・試験により、有利・不利が出てくる。
- ・ある程度の妥当性や信頼性を持つ民間試験でないと正確な受験生の能力測定に正確性を持つことができないから。
- ・センターが認定した全ての資格検定試験を対象とすることが、受験生の公平性を保証するものではない。
- ・4技能の要件を満たす民間試験であると思われるが、少数に絞ってしまうと認定試験に向けた授業内容になる可能性があると思われるから。
- ・難易度に差があるのではないかと。
- ・国の教育改革の動向を踏まえ、身に付けたい能力等を判定できると認められた試験であるから。
- ・公平性・平等性の確保が可能である。
- ・種類が多く、同じ基準で見ることができると不安
- ・数は多いが、選択肢があることはまだ良いこと。
- ・多い。
- ・民間試験が多いことが受験機会の均等に少しでもつながると考えるからである。しかしながら地方に住む生徒への配慮は全く不十分である。
- ・2回までという制限は不要
- ・受験生にとって、選択肢が多いことは良いことである。
- ・地域による受験機会の格差が大きすぎる。
- ・複数の試験を合否判定に利用することで、公平性を担保できるのか疑わしい。
- ・生徒に選択の自由があるのであれば、複数種の試験が対象となるのは妥当である。
- ・試験を受けるに当たって、場所的に受けられるものが限られているため。
- ・多くの機会が必要であるため公平性を確保できるのか不安
- ・対象の試験を認定するので。
- ・試験の数が多ければ、生徒の受検チャンスも増えるため。
- ・業者をさらに絞り込むことは実際には難しいと思うから。
- ・試験ごとにおける段階評価の公平性への疑問
- ・検定試験の内容、形式は様々であり、数種に限定するのは極めて困難である。
- ・学校や生徒の実状から、多様な資格・認定試験があった方がよい。
- ・大学進学を目指す生徒に選択の自由があって当然
- ・受験ビジネスの温床ではないか。受験会場、受験料・対策本など地域差や経済的格差が起きないことを願う。
- ・受験機会や選択肢の公平性を維持するため。
- ・受験機会の公平性。
- ・認定した内容はともかく、対象を広くしたことを評価する。
- ・受験機会の公平性
- ・どの認定試験がC E F Rの段階に有利に合致するか、という議論が起こるのではないかと考えるから。
- ・ある程度数を減らし指定すべきである。
- ・外部試験を併用するならばIELTSやTOEFLなど学術系統に絞るなど。
- ・成績の基準が確実に統一できるのか疑問
- ・多様なことは良いと思う。
- ・一方でラインの統一が難しく、不公平な判断が生じる可能性がある。
- ・受験料が非常に高額なものが含まれていること、受験会場が都市部に限られていることなど、経済的な格差、地域格差が大きな影響を与える。
- ・受験できる試験が多数あればチャレンジするチャンスが増える反面、受験費用が高くなり生徒の負担が増えるので補助できる仕組みが整うと良いと思う。
- ・数が多すぎるようだが、主な認定試験を含んでいるので良いと考える。

- ・選択の幅は広いほうが良いから。
- ・（公平性という点では問題がある）そもそも各大学の認定試験の活用状況が不明であり、共通テストの性格で共通でない民間試験を活用することにもそもそも齟齬が生じている。
- ・そもそもの各民間試験の目的に相違がある。
- ・公平性の担保が課題
- ・センターの指定する各々の試験が入試の手段としての妥当性に疑義がある。
- ・民間試験を採用すると決めた時点で、公平性を保つためには、全てを対象とすることは妥当と考える。認定しない根拠が見当たらない。
- ・公平性をある程度確保できる。
- ・民間試験の量
- ・地方受験をする生徒に I B T や C B T の環境が整備されるか等不安な点があるため。
- ・様々な時期に受験できた方が良いため。
- ・民間独自の特徴があり、平等に評価をするのに疑問が残る。
- ・統一した評価を目指すべき。
- ・数が多いため、スコアの幅、区分わけの正当性がわかりにくい。また、受験料の違いが大きく、生徒側から見れば、受験機会の均等も確保されていないため。
- ・選択肢が大きく、受験機会が増える。
- ・選択肢が増えるし、公平性が保たれるのであれば問題ないと考える。
- ・数が多いため公平性が保証されるか不安がある。
- ・種類が多い試験の公平性に欠ける可能性が大きくなるため。
- ・公平性という観点から。
- ・都市部と地方では受験できる試験について平等ではないと感じる。
- ・可能な限り選択肢を多くすべきと考えるから。
- ・生徒が選択できる数が多すぎて比較しにくい。
- ・受験生の選択肢が広がる。
- ・民間に委ねることによる問題が多すぎる。
- ・大学によって活用できる外部検定試験が異なっており、試験を受けるために遠出しなければならない。
- ・特に北海道内での受験地は札幌等の中心部に限定されていたり、東京まで行く必要があったりと、認定試験そのものは多岐にわたるものの、移動等も考慮すると、実際的には受験できる試験は限られてしまう。
- ・出願指導の観点から。
- ・数が多く、基準が複雑になる。
- ・これだけ多くの民間試験があることを踏まえると特定の試験を排除することはできないと思うが、受験料・難易度等が異なる試験の対照表に公平性があるかが疑問
- ・問題の難易度のバラツキで有利不利が出てくる可能性がある。
- ・問題の漏洩等も懸念される。
- ・選択の幅が広がるため。
- ・高校の所在地（僻地、離島など）等により、受験できる試験が限定されるのを回避するため全てを対象とし、受験機会を多くすることで受験生に不利益にならないようにする。
- ・各学校事情に合わせることが可能
- ・多くの民間試験の中から選択できるようにする。

- ・受験機会の公平性が確保される。
- ・個別の大学がどの民間試験をどのように活用するのが、最も大きな課題と考えるから。
- ・公平性の問題
- ・機会が多すぎる。
- ・システムが複雑になりすぎる。試験の原則は公平性が担保されることであるから、複数業者による認定試験の活用はこの原則に反する。
- ・資格取得や検定試験対策で、生徒の意気が上がる可能性があるから。
- ・選択肢が多い方が柔軟に対応できる。
- ・受験機会が多いのは良い。
- ・絞り込むほうが対策は取りやすいと思うが、実施時期の問題など、様々な制約が生じることと考えるから。
- ・センターとして認定したのであるから、個別の大学が利用の対象を取捨選択すべきではない。
- ・何でもありでは公平性が保たれなくなる。しかし、対象が多くなりすぎても同じように公平性に疑問が生じるのではないか。
- ・「公平性の保証」とならないと思う。
- ・受験生の利便性を考えれば「妥当」と考えるが、「公平性の保障」といえるのか判断できない。
- ・生徒自身で受けやすい試験を選べるように、選択肢が多い方が良いと思われる。
- ・違う検査を公平に入試に活用できない。
- ・C E F Rの基準が正しければ妥当
- ・評価基準に差が生じるため。
- ・検定の当初の目的がそれぞれ異なるから。
- ・センターが認定した試験を対象としないのであれば、そのことについて、すべての受験生や保護者が納得する理由付けが必要となる。ゆえに、国大協がすべての資格・検定試験を対象とすると判断したことは妥当と考える。
- ・認定された全ての資格検定試験だと数が多い。
- ・対象とする認定試験が多く、一つの試験に偏らずよい。
- ・民間検定試験は、それぞれのねらいが異なり、それを一律に判断するのは困難
- ・会話力を測るのであれば、民間試験に頼るしかないと思います。
- ・対象となる検定が多く、選択する基準が明確でない。
- ・チャレンジする機会が多い方がよいと考える。
- ・そもそも「大学入学に必要な英語の学力を測定する」ことを目的に開発されたものを採用するべきであり、そうでないものは不適当と思われるから。
- ・生徒が選べることはよいことと考えるから。
- ・各民間試験により出題方針や解答方法に差異があり、全ての受検者に対して公平であるとは言いがたいが、4技能の評価については現行の方法では課題があると考えするため。
- ・どれを選んでよいか、選択に困る。
- ・ある程度の数の選択肢があって良いと思う。
- ・各認定試験のねらい、評価項目、評価基準等が、これまで実施してきた学習指導要領に則るセンター試験と異なるため、いずれは高校英語教育に2種類の評価基準が持ち込まれることになることへの懸念。資格試験のように利用する可能性が生まれたから。
- ・学校によって様々な生徒がいるので、完全にはないが対応できるのではないか。
- ・選択肢が多いことは受験生の不利にならない。
- ・数が多すぎるが、選択肢はあった方がよい。
- ・数は多いが、最初はやむをえないと思う。
- ・受験機会の公平性を保証できるから。
- ・民間試験に対する偏った扱いを抑止する必要がある。
- ・居住地域によって、活用できる試験が限られてしまう。
- ・居住地域によって、受検できるものが実質的に限定される。
- ・検定によって、費用が大きく違う選択肢が増える受験生側にも様々なケースがあると予想されるため
- ・内容やその難易度に差がありすぎる。
- ・各校の対応に差があり、結果公平性が保たれないのではないかと危惧がある。
- ・検定料が違う学習指導要領に沿った問題が出題されるのが疑問である。
- ・機会は数多く用意した方がよい。
- ・共通テストで4技能を1時期に評価するのが無理だということで今回の改革になっているとすれば、35年度までに基礎データを集約し、共通テストとの整合性がとれるということであれば、民間試験にゆだねることも可と思うから。
- ・受験機会の公平性を保証するため選択肢が多い。
- ・受験生の受験機会の公平性を補償する観点から致し方ない。
- ・受験機会が増えるのは生徒にとって好ましい。
- ・民間試験すべてを対象とするというのが実際にやってみたときに、いろいろな弊害が出てくることが予想されるため。
- ・受験機会の公平性の確保
- ・全国くまなく平等な受験環境・機会が保証されていない。

【対象認定試験に対する評価】⑪-7「その他」

- ・認定試験は生徒が選択し、学校は指定や選択をしない。
- ・学習指導要領に準拠した内容であるかどうか。
- ・学校法人が指定している。
- ・この設問の趣旨からは、入試のための認定試験の受験であり、資格認定と言った認定試験本来の性格から外れることになり、大学受験のための認定試験受験（選定）となることに違和感を覚える。（今、言っても仕方ないこととは思いますが・・・）
- ・（６）の対策のしやすさとは、学習指導要領に則った授業で身に付ける範囲でまかなえなければ、「地域差や経済的格差」が生じないと思うが、やはり受験英語を奨励しているような選択しに見えてしまうのは、私だけであることを願う。
- ・定時制では、受験者が基本的にいないので選ばない。GTEC 2回を学校指定、英検は任意

【対象認定試験に対する評価】⑬-5「その他」

- ・今後、検討をした上で判断。進路に活用する生徒はいないので、学校として受験させることはほぼないと考えられる。
- ・認定試験は生徒が選択し、学校は指定や選択をしない。
- ・任意で受けさせる。
- ・（１）になると思うが現時点では分からない。
- ・検討中である。
- ・生徒の状況を見ながらになるが、結果的には（１）に落ち着くように思われる。
- ・今後の検討による。
- ・本人に任せる。ちなみに、この間は、受験指導そのものではないかと思うが、私の思い過ごしであることを願う。
- ・学校である程度指導などさせられるものを２つ程に絞って選ばせる。
- ・都合の良い時期を示す。
- ・未だに検討中です。

【対象認定試験に対する評価】⑭-7「その他」

- ・導入時期（おしり）が明示されているのに、具体的内容が未だ検討中でありはっきりしないこと。
- ・全国の高校が懸念する課題がどこまで解消されるのか、また、大学の出願・選抜にどのように活かされるのか（そもそも導入の目的が果たされるのか）、不明・心配な点が多い。
- ・定時制の生徒に関わっては特にない。
- ・未確定なことが多く、対策が立てにくい状況である。
- ・大学によって違いがあったり、私大の行方がわからなかったりして不安である。
- ・専門学科生徒が難易度に対応できるかどうかが不安
- ・定時制専門学科生徒が難易度に対応できるかどうかが不安
- ・各試験毎の難易度のバラつき。
- ・高3の4～6月は高体連の地区予選と重なり、多くの生徒が受験できなくなる。
- ・どのように活用されるかについても具体的な形、配分なども提示されていない。
- ・懸念はたくさんある。公平性が担保されるのかが、一番の不安である。
- ・学校での英語の授業の進度・四技能のレベル差・受験生徒の希望
- ・受験者がいないので懸案はない。
- ・授業の中で、得点アップのための必要以上の受験対策を行うのではないかという懸念
- ・得点アップのために必要以上に課外講習を行うようになるのではないかという懸念
- ・大学入学に必要な学力を公平かつ公正に測定できるのかが不明確であること。
- ・実際にGTECのCBTを受験したが、スピーキングの時に、隣の受験者とは薄いプラスチックの板1枚で仕切られており、教室中に他の受験者の音声が入り、自分の解答に集中できなかった。
- ・一生を決めるかもしれない大学入試会場の環境としては良くない。

【英語授業の改善等について】⑫-6「その他」

- ・英語表現Ⅰを2クラス3展開・3クラス4展開（習熟度）とし、今年度1年から開始した。
- ・次年度以降、2年生でも導入するとすれば、平成32年度以降、教員定数配置の検討が課題となる。※平成30年～32年度で1間口減のためオンライン英会話導入
- ・四技能を伸ばす授業改善は学習指導要領で求めていることであり、当然行われると思うが、認定試験のための授業改善でないことを願う。
- ・理文系生徒全員受験

【英語授業の改善等について】⑬「改善策・対応等」

- ・英藍スタンダードの設定とルーブリック評価の導入
- ・アウトプットを意識したAL型の授業改善
- ・1・2年でGTEC年1回全員受験。
- ・今年度より現3年で試行済
- ・教員の異動促進
- ・パフォーマンス（自己紹介・プレゼン等）テストの実施と評価、エッセイライティングとALTによる添削の実施
- ・GTECの活用による授業改善
- ・2クラス3展開少人数授業

- ・活動的な授業
- ・英語表現Ⅰを2クラス3展開・3クラス4展開（習熟度）とし、今年度1年から開始した。
- ・英語で表現する場面を多く取り入れているスピーキングテストの導入
- ・教科内研修の充実
- ・ネイティブと日本人教員のTTによる英会話授業の実施
- ・問22の2,4,5GTECを今年度実施予定である。
- ・段階的にねらいを持って授業すること
- ・次年度からの習熟度別授業の導入を検討している。
- ・講習時期の拡充を検討している。
- ・現在行っていない民間試験について研修を計画している。
- ・今年の1年生から、英語4技能対応の授業を行っていくため、英語科の中で、授業内容や方法等について検討を進め、実践している。また、全員GTECを導入した。ALT配置を実施した。
- ・スピーキングの機会を増やしている。
- ・今年度よりALTを常駐配置スピーキング、リスニング重視の授業民間検定試験の全員受検、ALT配置
- ・授業の中でもコンピテンシーを育成する授業研究の取組
- ・4技能については、指定事業からCAN-DOリストに基づいて指導している。
- ・オンライン英会話導入対話型の授業展開や課題研究的な学習内容に取り組んでいる。
- ・GTEC全員受検（1年）
- ・市のALT活用を含め、ALTが3名体制
- ・定期考査やGTECにおいて、スピーキングテストを導入している。
- ・2年生において試験的に、英検準2級以上受検希望者を集めた習熟度・進学希望別授業を展開している。
- ・民間検定試験の特徴の把握。ただし対象となる民間検定試験が多いため指導の要点を絞り込むことが困難
- ・classi生徒全員加入済
- ・授業、評価、問題集など活用しながら、改善している最中である。
- ・英語授業そのものの授業改善英語で授業を展開するのはもちろんであるが、オーセンティックな教材を意識して扱い、多くのタスクやアクティビティを通してインプット、アウトプットの機会がバランス良く取れるように配慮している。
- ・1・2年生全員を対象にGTECを導入している。
- ・新たな民間試験の導入についても議論する必要がある。
- ・スピーキングテストの実施。
- ・GTECを1年生から年2回全員受検とし、2・3年生は進学希望者による任意受検としている。
- ・受検料は折衝を重ね、町より全額負担をいただいている状況
- ・4技能をバランスよく身につけさせる授業
- ・教育課程検討委員会で検討中
- ・英語四技能バランスの取れた授業の実践
- ・本年度から、資格・模擬試験受検者に対して町から受検料全額補助が大変ありがたい。
- ・ALT配置の増加
- ・①ハワイマウイ高校とのスカイプを活用した交流授業 ②アメリカ人講師による英会話授業教育課程の検討
- ・1年生、英語表現Ⅰにおいて、後期から1クラス2展開で行う。
- ・1年生の英検全員受検、2、3年生への英検受検の推奨、全学年へのGTEC受検の推奨
- ・コミュニケーション重視の観点から、10年以上前から3年次の英語会話でT、Tでの授業を行っている。
- ・身に付けさせたい力を明確にした授業改善と、到達度を明確にした評価の在り方について取り組ませている。
- ・GTECの導入
- ・英語授業の漸次改善
- ・英検対策講座を新たに設け、高校3年生の新しい英会話Ⅱ（選択）を作りました。また、能動的学習の改善にも取り組んでいます。
- ・英語力向上プロジェクトへの取組
- ・1、2年生を対象としてGTECを導入（全員受検）
- ・4技能の習得を意図した授業改善認定試験受検を想定した講習の実施ALTによる授業構築とその展開（Speaking中心）
- ・授業改善
- ・個人の進路志望に合わせた指導
- ・単語と文法の定着とその運用
- ・英語の教員2名が指導する表現力重視の授業
- ・4技能への対応（授業改善）
- ・1、2年生を対象に「GTEC」年1回全員受検
- ・英語の授業そのものの改善
- ・ALT活用の改善講習実施

【英語認定試験導入に関わる問題について】④-6「その他」

- ・英語教育の方向性が展望できないこと英語教育の方向性が展望できないこと、英語教員の負担増・経済的、地域間格差よりも、どの試験を受験するか、または受検期間も含めて不公平が生ずる。実施に関わるすべて見切り発車の準備であり、生徒・教職員の負担が拡大する一方である。
- ・（５）の対応が非常に困難。とは、「これまでの授業を大幅に受験英語指導に変えるつもりがある。」でないことを願う。
- ・経済的に豊かな家庭の生徒はそうでない生徒に比べてより多くの受検機会（練習として）があるのは仕方がないのでしょうか。
- ・中学校までに備わる英語力が英検３級程度に達していない生徒が多数いることから、その水準から求められる水準に高める指導に、相当の時間とエネルギーを必要とすることがある。

・受験場が地域によって格差がある。学校受験等でもspeakingは別会場になる可能性が大きいため、交通費を含めると、本校のように支援金助成世帯・生活保護世帯が多い生徒の学校では大きな難しさがある。

・中学段階など、比較的早い段階で高いレベルの資格に挑戦する生徒が、受験への活用を意識して躊躇することになれば残念である。

- ・英語力の差が可否を左右する可能性が高まることに対して根本的な懸念を覚える。
- ・受験希望者がいなければ、受験も推奨もしない。
- ・経済的な理由から進学を断念してしまう生徒が多いなか、今回の入試の変更によってさらに進学をあきらめてしまう生徒が多くなってしまわないかが心配である。
- ・学びたい意欲のある生徒が頑張れる入試制度にしてほしい。

【英語認定試験の理解・周知について】㊟-1「確保している」

- ・各種研修会やセミナー等への参加を奨励。そこで得た情報を進路指導部が中心となり、学年、全体に発信校外の研修会等での資料や情報を随時提供している校外の研修会等での資料や情報を随時提供している校内研修や学年会において必要な情報を共有している。
- ・管理職、進路指導部から情報提供進路指導部を中心とする情報提供及び研修の実施情報提供等管理職、進路指導部、英語科から教員へ周知英語科教員への情報提供・進路指導部からの情報提供、研修会
- ・校内研修などで、全体への情報提供校外研修の実施、関係企業エージェントによる校内研修校内研修で情報を共有文科省の「高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業」を活用し、新着情報を教員へ提供している。
- ・進路指導部より新情報をその都度教員に提供民間講師を呼び、研修を実施している。
- ・教科部会中心に進めている進路部より随時職員へ情報提供している。
- ・管理職または進路指導部から情報提供
- ・進路指導部等からの情報提供を随時教員へ提供英語科による分析と説明英語科による分析と説明管理職や進路指導部から情報を提供している。

- ・ベネッセやリクルート等の民間機関進路指導部などからの、情報提供
- ・予備校等での、研修参加
- ・英語科内での勉強会進路指導部等からの情報提供
- ・進路指導部よりの情報提供情報提供英語科と進路指導部が協力して、英語科教員へ研修会などの情報を周知しています。

- ・管理職から新情報を教員に提供週に一回、英語科で検討を重ねている。
- ・英語科が情報収集(研修会・会議等に参加)し、進路部と協働して実施
- ・進路部より新情報をその都度教員へ提供管理職や進路指導部からの情報提供等管理職、進路指導部から、その都度新たな情報を教員へ伝えている。
- ・教員研修の実施管理職及び進路指導部からの情報提供を行っている。
- ・教育新聞などによる関連記事の情報共有校内研修による情報の提供等進路から情報提供英語科で検討中である。
- ・英語科、進路指導部の外部研修を優先している。
- ・校長が教員に情報を提供している。
- ・GTEC 1年全員受験について、検討し、計画されている。
- ・研究会等で得た情報を、進路担当者や英語科、担任等に情報提供している。
- ・新しい情報をその都度教員に提供している外部機関からの情報提供進路指導部が収集している情報の共有と内容理解を主とする校内研修

- ・関係の研修会やセミナーに関する情報の周知および参加の促進
- ・本校は昼間定時制農業高校ではあるが、普通科教員が次期異動先で苦慮しないために校内研修会などで情報提供をしている。
- ・校長教頭や教務部長より新情報をその都度教員へ提供したり、外部研修会へ派遣やS W Yより入試改革について提供したり配慮している。

- ・校外研修への参加促進と、その報告会の実施
- ・管理職や分掌により、新情報を教員に提示・校長及び進路指導部から情報提供、英語科でも検討
- ・管理職・教務部・英語科等から、全教職員への情報提供は随時している。
- ・現在、具体的取り組み内容を検討中。英語科や進路指導部宛てに来る情報を回覧し共有している。
- ・GTEC導入に当たり、英語科及び管理職より、情報提供を行い、学校課題検討委員会からの提案を受け、職員の共通理解を作るために、研修会を計画的に行っている。
- ・進路指導部と英語科・学年が連携した研修会への参加とフィードバック
- ・校内研修会は既に開催した。
- ・管理職や担当者から情報提供教務部から校内研修時に周知と研修が行われる。
- ・校外研修や講演等で得た情報を1年次担当英語教員で共有
- ・進路指導部からの情報提供随時、進路指導部や英語科から全教員へ提供
- ・管理職・進路指導部等からの情報提供新しい情報が入り次第、情報提供をしている校長からの職員会議等での情報発信及び、該当分掌等への準備指示

- ・英語科教員間の共通理解
- ・進路指導部、英語科による情報収集と対応策の検討英語科を中心とした研修の実施、及び、全職員への情報の提供
- ・管理職・教務部・進路指導部他、研修に参加した教諭からの情報提供
- ・進路指導部通信による教職員への情報提供進路指導部からの情報提供
- ・研修会参加・進路指導担当者が担当の職員研修を、その都度実施・研修後も新情報の職員回覧による提供情報の提供、共有

【英語認定試験の理解・周知について】②⑥「要望等」

- ・ 具体の細かな行程表、懸案事項（課題）の検討状況や解決の方向性などを全体に明示してほしい。
- ・ 英語教育の方向性が展望できるよう、情報提供してほしい。
- ・ 大きな変更を伴う入試制度がこの時期にこの程度の内容しか示されていないことに対する憤りがある。
- ・ 関係機関も当然、要望等を申し入れているが聞き入れられて以内現状では諦め感も学校には漂っている。
- ・ 早期に英語認定試験導入の全体像を周知して欲しい。
- ・ 導入に向けてのモデルケースなどを提示していただけると有難い。
- ・ とにかく情報不足。生徒への指導の面で苦慮しているのが実態です。全体像を早く明らかにしてもらうことで、学校での対応策も進みます。
- ・ 志望校の幅が限定されてしまうので、導入方法についてはできるだけ統一していただきたい。
- ・ 国公立大学の活用方法については、生徒負担を軽減する方向性で統一した動きになってほしい。
- ・ 大学側は「未定」が多く、学校としては対応に苦慮している。
- ・ 多様化する英語において、高校3年生の2回のみというのは、日本で英語を学ぶ受験生には酷すぎると考える。
- ・ グローバルな視点からも極めて受験生にとって不自由な運営と考える。
- ・ すべての大学ができるだけ早く、検定試験の導入方法について通知してほしい。
- ・ 早く全体像を明らかにして、各大学の対応を示してほしい。
- ・ 受験料に対する経済的な支援策本試験制度についての概要版の速やかな公表
- ・ 公平性の担保
- ・ 生徒の為に早期の決定、そして負担増にならないよう希望しています。
- ・ 早期に各大学の活用方法等について決定してほしい。
- ・ どの検定試験が推奨されているのか、また、他校が活用予定の検定種類。受験料については資格取得が目的でないなら価格は下げるべき。（受益者負担の原則から外れていないか？）
- ・ 年度中に各業者の時期を確定してほしい。
- ・ 経済的に困窮している家庭へのアプローチはどうするのか。
- ・ 在宅で受験できる方法は模索できないのか。
- ・ 細部にわたり具体的なことをはっきりさせてほしい。また、共通試験を継続すべき。
- ・ 認定試験の活用予定について各大学の方針を明確にしてほしい。
- ・ 生徒のほとんどが就職希望である為、影響は無い。
- ・ 本校の実態としては英検のみが望ましい概要を早く確定してほしい。（検定料、会場等）
- ・ 全認定試験の会場等詳細を早く決定してほしい。
- ・ 時期を3年生に限らないでほしい。
- ・ 今年の1年生から、英語4技能対応の授業を行っていくため、英語科の中で、授業内容や方法等について検討を進め、実践している。また、全員GTECを導入した。ALT配置を実施した。
- ・ 準備に見合う日程を示して欲しい。
- ・ 時期を2年11月～等へ変更してほしい。
- ・ 年内に実施等におけるスケジュールの提示、試験問題例の各社の公開
- ・ 大学ごとに異なる試験を指定する状況は避けてほしい。
- ・ 学校としての準備スケジュールや対応策などのモデルとなる情報が欲しい。
- ・ 各大学における活用方法について早期な公表
- ・ 教科書会社は単に英語認定試験に合格するためだけのものではなく、英語のForm, Meaning, Useに配慮し英語の知識・理解・技能（4技能）の習得だけではなく、軽度でも問題解決するためのものを創作
- ・ 英語科目の授業時数は増大せざるを得ず、関係教員の配置（定数）も増加させざるを得ないと考ええる。
- ・ 4技能習得には、単純に民間認定試験を導入するのみならず、学習者の授業時間外学習に期待するだけでなく、教科横断型学習も含めて、十分な基礎力と応用力を養成するための授業時間の確保が必要と考える。
- ・ 評価基準等受験生が具体的に目標を設定できる情報がほしい。
- ・ 具体的な認定試験内容の提示（CBT含む）
- ・ 一般受験者がいないので、推薦入試やAO入試での要件として各大学が示してくるのかの情報について明らかにしてほしい。
- ・ 検定料の引き下げを要望
- ・ 実施後は、状況を踏まえて改善すべき。
- ・ 推進派の意見のみではなく、懸念を表明している識者の意見も真摯に受け止め、バランスのある制度とすべきである。
- ・ 経済の活性化という下心で実効性の不確かな手法を用いて徒に生徒と現場を混乱させていると思えてならない。
- ・ 各試験にかかる費用に差が出ない工夫をしていただきたい。
- ・ 英検1日完結型の情報が少ないので、早急に明らかにして欲しい。（受検料、開催時程、会場の設置基準等）
- ・ 共通テストでの英語をずっと継続して欲しい。
- ・ 詳細が早く決まること 文科省は大学に「2年前まで」としているので大学がのんびりしている上に、今さら「反対」などと発言しているが、高校生のことを考え、一刻も早く決めてほしい。ちなみに、次の学習指導要領に基づく教育課程を編成し中学校に情報発信するためには、遅くても、3年前の4月には教育課程を編成しなければならない。したがって、「2年前規程？」を改め、4年前の年度内に入試制度を固め発表してほしい。

- ・ 生徒への負担が少なく、公平な評価ができるものにしてほしい。
- ・ 速報は随時、年度内には全体像の情報を提示してほしい。
- ・ 外部試験の受験会場が大きな問題である。交通手段含め、北海道の地域が広い認識が中央には実態としてわかっていない点があります。通級についても自校通級ができなければ他校通級でと、簡単に電車やバスで通えるとのイメージが中央の方の認識が多いと本校の文科の研究でも担当者が

言っておりました。北海道の広い実態について理解してもらうことが大切かと思います。

- ・国大協の対応を含め、年度内に全体像を確定してほしい。
- ・生徒・保護者に不安のないような明確な情報提供が欲しい。
- ・早い段階で取得した生徒の到達点を見ないことにするのは大変残念である。
- ・対応の具体を早期に確定させ、公表してほしい。
- ・1, 2年生の受験も対象とするか、3年次の1回に限定するか、時期や回数について検討してもらいたい。
- ・どの生徒・保護者にも公平に情報を伝えることができるように、なるべく単純な仕組みで、格差（経済的）の軽減が図られるようにして欲しい。
- ・高校の教育現場が混乱しないように、公平に情報を伝えることができ、なるべく単純な仕組みで、格差（経済的）の軽減が図られるようにして欲しい。
- ・早期に、認定試験の受験に関する要領（種類・受験地・受験料）等について、正式に決定してほしい。また、各大学での活用方法について、決定して欲しい。
- ・地域格差のない試験の導入懸念される問題点に対する改善策を明らかにして欲しい。
- ・新テストに係るプレテストのような、試行の機会を設定できないか。
- ・各校の状況を管内もしくは全道の教科部会で研修内容のテーマの一つとして取り上げてほしい。
- ・英語科教員全員の課題意識と一定レベルの共通認識を図っていただきたい。
- ・地方校在籍生徒の地域格差、経済格差を全く考慮しておらず、そのための特別な措置も講じていない現状で、大変不利な環境である。できるだけ速やかに全体像を確定し、周知して欲しい国は様々なところから出ている情報をわかりやすく整理し、学校や家庭に対して説明責任（適切な情報提供）を継続的に行ってほしい。
- ・受験料値上げの理由を説明して欲しい。（英検）
- ・経済的負担や地方生徒への配慮がない。
- ・認定試験の結果の活用方法を早期に決定して欲しい。
- ・共通テストに関する情報もほしい。
- ・生徒の経済的格差や地域間格差を生じないように配慮願いたい。
- ・新テストの扱いについては、速やかな情報提供と現1年生への対応を柔軟にするようお願いする。
- ・田舎のため受験地まで時間、費用がかかる。そのため、4月当初に保護者に案内する必要がある。

【大学入試英語成績提供システムに対する評価】⑨【疑問・課題・不安材料等】

- ・実際の業務などが見えにくいので、なんとも言いようがない。
- ・学校にとって大事なこの情報が本年度初めて提示されたことに対する不信感がある。
- ・当然、民間検定の活用を謳ったときから考え方はセットだったのではないのか。学校にとって大事なこの情報が本年度初めて提示されたことに対する不信感がある。
- ・可能な限り早い「確定」を期待する。
- ・本校は私大希望者が多いので、今回の高大接続改革で、どのように私大が改革するか情報が少ない。そのため、教育課程の改善や授業改善の計り方のポイントが分かりづらい状況である。
- ・個人情報の管理認定試験結果が、きちんと反映できるのか。反映できなかったときの対応も想定されているのか。
- ・高2の11月からIDが申し込めるのであれば、同年度1月実施の英検の結果も活用できるようにしていただきたい。
- ・疑問も課題も多くありますが、まずは、大学入試改革が学習指導要領改定の趣旨に合致したものであることを期待して、授業や教育課程の改善に力を注ぐしかないと考えます。
- ・時期的なものや、突然進路変更し、大学受験を考えた時の場合などスムーズに行くか不安である特になし情報管理におけるセキュリティへの不安。英語については大幅に入試システムが変化するので、できるだけ早めの情報がほしい。
- ・生徒本人が、自分の成績を確認できるかどうか。統合型・推薦型入試における利用について、その有無も含めて早く方針を示してほしい。
- ・個人情報の管理（セキュリティ）とシステムエラーの可能性への懸念

- ・受験生本人がセンター試験後に、自己の英語の得点が認定試験の結果によりどの程度「加点」されるのかが個別試験出願前に知ることはできるのか否か。
- ・資格試験の結果と共通テストの結果が極端に異なる場合、どちらかの成績が欠ける場合はどう処理されるのか、また個別試験に出願することはできるのか。
- ・民間試験や資格試験を利用する発想は悪くないが、小中高の学校の普通の英語の授業をもっと楽しいものにする必要がある。そのためにも、評価・評定なども他教科と横並びの数値的なものであってはならないと考える。
- ・診断カルテのような的確なアドバイスと患者を労うような温かい言葉で評価ができないものかと日ごろから感じている。
- ・個人情報の流出や、共通IDに対する学校管理方法などの関わり方について受験生が自分の得点を正確にわかるとよい。
- ・共通ID発行の手続きは、申し込み取りまとめ・在学証明の添付など、学校の業務負担が増えることから、できるだけ簡単なシステムであり、より早い時期から申請できるシステムを願う。
- ・東大に追随する大学がさらに出てくると、大学入試センターの方針は空中分解するのではないかと心配です。
- ・やはり、本校で決めた英語認定試験が大学に通用するかどうかはとても不安です。
- ・取り扱いの上で混乱がないようにしてほしい。
- ・システム、管理に不安がある。
- ・全体像を理解するための情報が不足。浪人生の扱いがよくわからない。
- ・不明な部分が多い。
- ・各認定試験の実施方法や内容、特徴についてわからないというのは、生徒や保護者だけでなく、教員にも少なくない。
- ・成績提供システムを含め、民間試験とその活用について研修する場を設けることが必要不可欠である。
- ・確定した情報を正確かつ早期に入手したい。
- ・浪人した場合の対応等についての情報を知りたい。
- ・高校に入学した生徒がいつでもどこでも手軽に受験が可能になる方法を模索するべき。（在宅受験、iBTの活用など）
- ・特になし。現状では受験希望者が出る可能性がほとんど想定されないため。
- ・システムがしっかり構築され、チェック機能がしっかりするのが不安である。
- ・詳細を決めて早く公表学校としてどれほど関与するのか、詳細を知りたい。
- ・共通IDの管理をどのようにするか。学校一括にするか生徒個人にするかなど。
- ・認定試験を大学入試に入試利用する以上は、3年生に限らず、過去の認定実績をも利用可能とすべきと考える。そのためには、認定試験を受検する全ての児童生徒にIDを発行すべきと考える。
- ・制度の公平性をしっかりと担保される制度になることが重要と感じています。また、試験であるので定点(入学受験時期)における能力を横断的に診断することが大切であると考えます。
- ・東京大学の対応が二転三転しており、各大学がその動きを探りながら方針を決めようとしているのが伺える。
- ・過渡期に受験する生徒に決して不利益にならぬよう進めてほしい学校での業務が煩雑になることへの懸念
- ・どの段階で受検生は共通ID発行の申請をするのか。（資格・検定試験を受ける前は不安材料有り）
- ・IDは、大学受験のキップのようなモノ
- ・ビックデータとし個人情報が使われ方次第で、受験ビジネスに巻き込まれかねない。
- ・2020年の東京オリンピックのサイバーテロ対策とはいかないまでも、国民番号化への入り口に使われないことを願う。
- ・セキュリティ、生徒本人の共通IDの保持について不安がある。
- ・本校から、受験する生徒はいないが、道立高校教員として全道の広域な状況を見ると、教員指導力（スキル）格差が懸念される。
- ・成績提供システムについても、委託業者や入力方法、個人情報保護、各種検定試験実施等においても不安材料が多いと思う。
- ・共通ID、マイナンバーなどユーザー（生徒）側の安全やメリットはどれだけ保証させるのか。
- ・民間試験の導入により懸念されることは、点数を取るだけのテクニックに頼った勉強法に偏り本来の目標である4技能のバランスの良い育成がなされなくなることである。
- ・個人情報のセキュリティ・手続き等に係る本人や教員の負担を懸念共通IDの管理方法
- ・就職から進学へ、または専門学校を出たあと大学へ入り直す、社会人入試で大学進学を考える等の多様な進路変更に伴う対応が必要となると考える。
- ・共通IDの有効期限も2浪、3浪した場合を含め、別途措置が必要と思われる学生に対し、エントリーの仕方を含めた手引きを早めに示して欲しい。
- ・セキュリティ面の問題が心配される現段階ではとくにありません。
- ・意識付けを含めて高校2年の11月までに指導することの整理（教科・進路両面）や検定試験への対応（試験名・受験回数等）などが課題様子見したいと思います。
- ・浪人生への対応の仕方について各試験の結果を公平に評価できるのだろうか？
- ・経済的な負担を強いることになるので、負担の軽減がされるようにしてほしい。
- ・全体像がまだよくわからない。
- ・今後も変わってしまうような流動的なものにならないようにしっかりしたシステムにしてほしい。
- ・情報が不明確である。
- ・情報の不足大学入試英語成績提供システムの成績情報が大学入学共通テストを利用しない入学者選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜でも利用可能となる予定であるが、どの程度利用されるのか。
- ・個人情報の流出や他人による不正使用等の防止が徹底できるか不安がある。
- ・何を狙いとしたシステムなのか周知されていない気がする。
- ・表面上の説明とは違う本丸の思惑があるような気がする。
- ・全体的にトップダウンの間があり説明責任は十分果たされていないと感じている。
- ・浪人した場合どうなる？長期で療養が必要な場合、どうなる？

- ・体調に不安を抱える生徒がおり、検定試験・共通テスト、２次試験と多くの試験が１年に集中した場合、耐えられない生徒が出てくるのではないか。
- ・長期にわたって準備できる処置もあって欲しい。
- ・ＩＤ関連情報の管理と漏洩が気になる学力は小中高と積み上げての成果を測るものだと思うが、２年後から着手するとなると高校だけで責任を負うものだと改めて感じる。
- ・大学進学を考えていない者にとっては英語の学力は改善されていかないと思う。
- ・学力は小中高と積み上げての成果を測るものだと思うが、２年後から着手するとなると高校だけで責任を負うものだと改めて感じる。
- ・高校の教員がどの程度、準備・管理等に関わるのかが分からない。
- ・新しい取組が始まるにあたって不安な部分がありますが、詳細が確定することで対策が打てますので、早急に全体像を確定して欲しい。
- ・更に新たな費用負担の懸念
- ・情報等の管理運営の信頼性が不安
- ・現段階では特記なし。
- ・共通IDの管理など、個人情報の管理は生徒が自分でやるのか学校が管理するのか。
- ・不明な点が多いため、早急に具体案を提示して欲しい。